

# 令和3年度第2回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所 令和3年12月23日(木) 10:00~11:30  
兵庫県庁3号館10F 教育委員会室  
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10-1
- 2 出席者  
(委員12名) 山口委員 長ヶ原委員 平野委員(WEB) 倉委員  
鳩木委員 尾山委員 恒木委員 三上委員  
角南委員 陳委員 榎並委員 石角委員
- 欠席：吉矢委員 小林委員 山根委員
- (策定委員会部会長) 増田部会長(障害者スポーツ部会)
- (関係幹事4名) 中井幹事 北中幹事 榊幹事 田中幹事
- (陪席3名) 藤原兵庫県体育協会事務局長  
織邊スポーツ振興課参事  
田村スポーツ振興課参事
- (教育委員会) 西上教育長
- (事務局) 岡本副課長 金田主幹  
鵜野指導主事 東郷指導主事 入田指導主事  
橋口事務職員
- 3 開会
- 4 あいさつ 西上教育長
- 5 委員・幹事紹介
- 6 署名委員の指名 署名委員は、恒木委員、陳委員に決定
- 7 前回議事録の報告  
令和3年度第1回兵庫県スポーツ推進審議会の審議事項(第2期兵庫県スポーツ推進計画諮問、現行計画の総括、県民スポーツ意識調査結果)と報告事項(令和3年度の事業概要について)の議事録について事務局より説明し、承認を受けた。
- 8 審議事項  
第2期兵庫県スポーツ推進計画(答申)  
(1) 策定委員会及び部会における協議内容について  
事務局より4回開催された策定委員会・部会について説明を行った。  
(2) 第2期兵庫県スポーツ推進計画(案)について  
事務局より計画概要と計画本文について説明を行った。

### (3) 各部会での協議のポイント等について

子ども・ユーススポーツ、生涯スポーツについては長ヶ原部会長より説明し、競技スポーツについては鷗木部会長より説明し、障害者スポーツについては増田部会長から説明を行った。

### (4) パブリック・コメントの内容と対応について

事務局より12月に実施したパブリック・コメントにおいて、県民から寄せられた21件の意見とその対応について説明を行った。

### (5) 答申

山口委員長より答申について総括説明を行い、委員の承認を受けた。その後、西上教育長へ「答申」を手渡した。

## 9 その他

### (1) 策定までの今後のスケジュールについて

事務局より今後の策定までのスケジュールの説明を行った。

### (2) 基本理念にむけた方策等について

各委員から意見を求め、今後の方向性について検討した。

## ■ 委員の主な意見及び事務局の説明

### 審議事項

＜第2期兵庫県スポーツ推進計画（答申）各部会での協議のポイント等について＞

#### 【長ヶ原委員】

- 子どもが非常に重要なので、幼児期、児童期、青年期までを含めた子ども・ユーススポーツを別枠で設定した。また、成人を対象とした生涯スポーツの2本立てで協議を進めた。

子ども・ユーススポーツの推進としては、「運動・スポーツなど体を動かすことが好きな子どもの増加をめざす」ことを主な施策目標として掲げた。

施策としては、最初の「(1) 運動・スポーツが好きになる機会を創出していく」では、幼児期からの運動遊びを通じて、運動習慣づくりを推進する。

諮問にある「地域スポーツ環境の整備」については(2) 発育・発達段階に対応したスポーツ環境の整備において対応する。また、運動部活動については、運動種目の特性を踏まえ、科学的知見を活用し、心身の健康管理や事故防止に努めていくとともに体罰やハラスメント防止に向けた具体的施策を行うこととした。

次にファミリースポーツを掲げ、諮問にある「アーバンスポーツについて」は、子ども・ユーススポーツの推進において取り組む。

生涯スポーツの推進において、多様なニーズを踏まえた気軽に参画できる運動・スポーツ環境づくりの推進とビジネスパーソンや女性を対象にした参画促進を推進する。

「みる」スポーツについては、生涯スポーツの楽しみ方の一つとして捉え、次世代通信技術を活用し、スポーツ観戦や実施形態の新しいスポーツ機会を創出について検証する。

「ささえる」スポーツの大規模大会やスポーツイベントにおいて、大学やスポーツボランティア団体の連携を促進しながら、「ささえる」スポーツへの参画人口増加につなげる。

総合型地域スポーツクラブの質的充実には、諮問にある「地域スポーツ環境の整備や総合型地域スポーツクラブの今後のあり方」について、地域のニーズや課題に応じた多項目、多世代、多志向のプログラムの実施を促進することやコンソーシアムを形成していくなどを掲げる。

行政スポーツ団体、大学、民間事業者の連携強化では、国際的・全国的レベルの大会、合宿の招致、イベントを通じたスポーツツーリズムを促進し、地元企業とか大学と地域ス

ポーツの関係者の連携強化により、地域スポーツ環境の充実やスポーツ参画人口の拡大につなげることとした。

#### 【鶴木委員】

- 諮問にある「県全体での競技力向上には、天皇杯8位入賞という目標が引き続き適切であると考えることから」という部分については、政策目標「県民に夢と感動を与えるアスリートを輩出するため、国民体育大会をはじめ国内外の大会で入賞をめざす」とする。

これまでは、国民体育大会でよい成績を収めることで県民に元気を与え、元気な兵庫を発信してきた。今後は、競技力だけではなく、人間性豊かな、多くの県民に夢と感動を与えるアスリートの輩出をめざすことを提案する。

次に諮問にある「次世代アスリートの発掘・育成」について、一貫した指導体制を活用し、ジュニア期からの系統的かつ計画的な選手発掘を推進する。ジュニア期から選手発掘・育成においても、人間性豊かなアスリートであることを大切にする。

諮問にある「トレーニングセンター、アリーナなどの整備の必要性」については、施設を造る膨大な経費と時間をかけるより、あらゆるアスリートのニーズに対応できる体制づくりを強化することで対応する。アスリートの育成と強化環境の整備の中で、医・科学スタッフなど多様な人材を活用した競技別強化拠点の整備を促進する。

トップアスリートが活躍できる場の支援については、県ゆかりの選手が活躍できる環境を整え、地域スポーツへの貢献等の好循環を生み出すこととした。

#### 【増田委員】

- 諮問にある「障害者スポーツの総合的推進体制を整備し、障害者のニーズや意欲に合ったスポーツ機会の充実」が重要であるため、情報発信や一般スポーツの団体・競技者との連携をさらに充実する。

また、特別支援学校の用具の整備等によるスポーツ環境の充実や学校・企業等を障害者スポーツの拠点化することなどを推進する。

諮問にある、eスポーツにおいては、障害者が社会参画できる可能性が十分にあるので検討する。

障害者スポーツの競技力の向上では、一般競技団体と障害者スポーツアスリートや競技団体がネットワークをつくり、発掘・育成を推進する。

障害者スポーツに関わる指導員の育成や養成促進においても、一般競技団体と障害者スポーツのアスリート、または競技団体がネットワークをつくり、発掘・育成を推進する。

障害者スポーツへの理解促進では、諮問にある環境の整備も含めて、関係団体の差別的な扱いを防止し、合理的配慮の取組要請の周知、啓発を促進することとした。

#### 【山口会長】

- 諮問にある「コンプライアンスの徹底」やスポーツ団体の健全・適正な運営確保の徹底については、ガバナンス強化等を各政策目標の中で取り扱う。

また、諮問にある「新たなスポーツスタイル」については、アーバンスポーツを若者や子どものスポーツ参画機会の拡充や、若者のスポーツ離れを解消する手段として捉え、推進する。

また、eスポーツの取扱いについては、障害者スポーツの裾野拡大において、障害者がスポーツに参画する有効な手段の1つとなることから、国の動向を踏まえて検討していくと記載することとした。

## 意見集約

### <基本理念の実現にむけた方策等について>

#### 【尾山委員】

- 県が神戸マラソンの協賛をやめることについては、今後、企業との共催やふるさと税制、クラウドファンディング等の活用など、財務的バックボーンを確保することが重要になる。
  - 2番目はナショナルトレーニングセンターを関西全体で賛同し、誘致する提案を行いたい。
  - 3番目は、eスポーツについては、基本的には体の動きを伴うものと定義づけていくことが良い。
    - アーバンスポーツについては、広島で行われている世界大会を神戸で開催したい。フランスのモンペリエに本部があるので、またコンタクトしてみたい。
    - アーバンスポーツの問題点は公園のコンクリートや駅前のスペースで、ブレイクダンス等を行うので、危険に思う。今後の伸びを考えると絶対的に場所が足りないので、安全な場所を指定してはどうか。

#### 【角南委員】

- 部活動について、競技スポーツと学校体育や教育に関わる部活動とは切り離して考える。
  - まず、部活動については、人間育成の部分が多い。競技スポーツについては、教員がトップアスリートの発掘する視点は随分と薄い。子どものすばらしい特性や一人一人の個性をしっかりと見極めながら、人材の発掘や育成につなげていくような認識も必要と感じる。

#### 【三上委員】

- 「する、みる、ささえる」スポーツだけでなく、障害者スポーツは「創る」スポーツが必要だと思う。今後は、一つの用具やルールにこだわらず、様々な障害のある人がスポーツを楽しむため、指導者があらゆる面で創造力を発揮しながら、障害がある人もない人も一緒にスポーツができることを意識づけしていくことを提案したい。

#### 【榎並委員】

- 女性のスポーツでは、託児所の整備など、子どもたちと一緒に運動できる環境が重要になる。
  - ナショナルトレーニングセンターのような大きな施設も大切だが、託児所等を含めた施設ができることを提案していく。

#### 【陳 委員】

- 計画については、すべての分野において網羅されたものができている。
  - 大学生が、兵庫県で競技を続ける形で就職ができない事例がある。また、兵庫県に戻りたいが、他府県で就職する事例もある。県体協も、県で就職できるような体制や取組をしているが、なかなか進んでいない現状がある。
    - ナショナルトレーニングセンターについては、兵庫県には、公認1種の陸上競技場がた

くさんあるが、気軽に練習できる競技場が少ない。神戸市の王子公園が大学になるので、陸上競技場が1つなくなる。近隣の高校や大学、多くの市民団体が手軽で、身近に利用できる400mのカーブがある練習環境を残していくことも重要である。

また、今後はインクルーシブが重要となる。性別・年齢、障害の有無にかかわらず、スポーツに取り組む機会を充実していくべきである。

#### 【山口会長】

- 神戸商工会議所の中に、神戸スポーツ産業懇話会がある。アスリートと就職のマッチングをテーマで3月初めに開催する。

## 10 閉会